

# 第二部 これからのJPCOARを考える 実務担当者の声 ～ JPCOAR若手作業部会員から

JPCOAR人材育成作業部会  
山口美咲(国立女性教育会館)

## 活動方針(2022-2026)案を読んで感じたこと

オープンアクセスが進めば、  
学生に接する図書館員として

- より資料入手のハードル(時間・金額など)が低くなり、研究・学習の向上・深化が期待できる
- web上で資料を探す際の方法や注意点が増えるのでは

研究者・教員に接する図書館員として

- 資料入手のハードルが低くなることに加え、自身の研究成果や教育成果をより簡単に広く公開することができ、研究分野の発展や共同研究などの新たな機会につながる

地域の研究家に接する図書館員として

- 組織に所属していなくても入手できる資料が増える
- パソコンが無いと資料が入手できないなど、デジタル・ディバイドの問題もある

### 機関リポジトリの登録業務を行う図書館員として

- 登録したものが世界中に公表されるため、ミスしないように気が抜けない
- さまざまな形式の資料が生まれており、リポジトリの中でどのように扱うか悩む
- 新しいシステムや取り組みなどについて情報収集が欠かせない

### JPCOARの作業部会員として

- 機関リポジトリでできること・扱えるものが広がるほど、各機関が目指す方向も異なり細分化していき、共通のイメージが持ち難くなりそう

## 重点活動項目

### 1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成

各会員機関が、個々の特性や置かれている状況に応じて細やかな情報交換を行い、また業務上必要な研鑽を積み、人材を育成していくことができるよう、協会はその機会創出を行う。また、協会は、オープンサイエンスに向けた先進的な取組事例（海外事例、類縁コミュニティや会員機関自身によるものを含む）の情報収集・共有化をすすめ、各会員機関が応用・活用できるようにする。

## オープンアクセスリポジトリ推進協会 設立趣意書（平成28年）

### 3. 具体的な活動

#### 人材育成

- 担当者の習熟段階や担当主題に応じた研修を実施する。
- 集合研修への参加が難しい機関等に配慮し、オンライン環境で自己学習できる環境を整備する。

## 会員機関の広がり

現在のJPCOAR会員機関は、大学(国公私・規模・分野などさまざま)、研究所(規模・分野などさまざま)、美術館・博物館、独立行政法人など、多岐にわたっている。

作業部会員は大学(特に国立大学)の方が多いので、私たちが前提と捉えていることが本当にそうであるのか、見直しを行うとよいのではないか。

⇒改めて、

- どのような機関が集まっているのか？
- どのような協力をすることができるのか？
- どのようなコミュニティを望むのか？

といったことを確認するのがよいのでは

方法としては、参加機関全体へのアンケートなどが考えられる

## 担当者の多岐

今年度開催したオープンアクセス新任担当者研修の参加者は、「リポジトリは構築済みで日々の業務の疑問点がある」「前任者がおらず質問できない」「これからリポジトリを立ち上げる」「情報システム系の部署である」「実務は委託業者が行っている」など、立場やお悩みはさまざま。

- 「一般的な」内容になるよう作成してきた研修資料では、「大学の場合は」「組織による」というような、自館に引き付けて考えにくい書き方が増えてしまい、消化不良を生んでしまっているのではないか
- 毎年研修資料のブラッシュアップを行ってきたが、すでにある資料の手直しの側面が強かったので、全体的な見直しが必要と感じている
- 機関種別・担当者の習熟度別など、ターゲットを細かく絞った資料を用意することを検討中

## 研修の内容は？

- 聞いて終わりではなく、受講後に行動に移りやすい、業務に取り入れていけるものにできたら  
例えば)機関リポジトリとはどういったもので何ができるのか、ということがまとまった資料があれば、  
担当者の参考になるだけでなく、他部署の職員・研究者・学生への説明に使えるのでは  
例えば)担当者交代の際に引継ぎがないという悩みを聞くので、マニュアル作成の手助けとなるものを  
(事例紹介やフォーマットの提案など)
- 先進的な取組事例については、情報共有や解説がとても助かる。JPCOAR内だけでなく他機関の専門家とも協力していく

## 研修の形式は？

- オンラインの方法も、ライブ配信・オンデマンド、テキスト資料・動画・eラーニングなどさまざま。どの方法にも良い点と課題があるので、さまざまな方法で用意できれば理想的だが...
- グループ討議などで他機関の事例を聞くことは参考になり、担当者同士の横のつながりが生まれる契機にもなる
- オンラインだと、名刺交換やちょっとした雑談というのが難しい。ここは現地研修の利点
- 非常勤の方なども参加しやすい方法で実施する